

介護職員養成研修課程カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

令和8年4月1日～

科(科目)名	科目番号・内容	実施計画	
(1) 職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス・介護保険外サービスの理解 インフォーマルサービスの理解 	(1)-①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容の理解 サービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種及び介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 	(1)-②
(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権の保障（個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシー保護） ICFについて QOLの考え方、ノーマライゼーションの考え方 身体拘束の禁止、高齢者虐待防止と養護者支援 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業 	(2)-①
	②自立に向けた介護 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援（残存能力の活用・意欲を高める支援・個別ケア・重度化防止） 介護予防の考え方（廃用症候群・生活習慣病） 	(2)-②
(3) 介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケア 介護職の専門性（重度化防止の視点・利用者主体の支援・自立した生活を支える援助・根拠のある介護・チームケアの重要性） 専門性の異なる多職種の理解、効果的なサービス提供 	(3)-①
	②介護職の職業倫理 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の倫理・介護専門職の倫理と介護職と社会的責任 プライバシーの尊重と保護 	(3)-②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> リスクとハザード、リスクマネジメント（事故の分析と対応の技術） 事故報告、事故の予防、情報共有 感染症対策（知識と対応） 	(3)-③
	④介護職の安全 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護職員の心身の健康管理（ストレスマネジメント・腰痛予防・手洗いとうがい） 	(3)-④
(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (4.5時間)	①介護保険制度 (4.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の目的、動向（ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センター・地域包括ケアシステム） 介護保険制度の仕組み、介護給付・予防給付・要介護認定の手順 財源と財政負担・指定介護サービス事業者の指定 	(4)-①

(9時間)	②医療との連携 とリハビリテーション (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護、施設における看護・介護の連携、リハビリテーションの理念 ・訪問看護 	(4)-②
	③障害者総合支援制度および その他制度 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の理念、ICFについて ・障害者総合支援制度の基礎的理解 ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活支援制度 	(4)-③
(6時間)	①介護における コミュニケーション (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴・共感 ・言語・非言語コミュニケーション ・利用者・家族の心理的理解・信頼関係の形成・ニーズとデマンドの違い ・利用者の状態に応じたコミュニケーション技術 	(5)-①
	②介護における チームのコミュニケーション (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義、目的、種類、書き方（個別援助計画書、ヒヤリハット、各種帳票） ・報告、連絡、相談の留意点 ・情報共有と役割（会議、カンファレンス、申し送り） 	(5)-②
(6時間)	①老化に伴うこ ころとからだ の変化と日常 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化（防衛反応の変化・喪失体験） ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・精神的機能の変化と日常生活への影響 	(6)-①
	②高齢者と健康 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・骨折・筋力低下・関節痛 ・高齢者に多い病気（循環器疾患・鬱症状・誤嚥性肺炎） ・症状の変化に気づく視点 	(6)-②
(6時間)	①認知症を取り 巻く状況 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア） 	(7)-①
	②医学的側面か ら見た認知症 の基礎と健康 管理 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義と診断 ・原因疾患と治療 ・早期発見と予防 	(7)-②
	③認知症に伴う こころとからだ の変化と日常 生活 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・中核症状・周辺症状（BPSD） ・認知症の人への対応（バリデーション） ・不適切なケア 	(7)-③
	④家族への支援 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア） 	(7)-④
(8) 障害の 理解 (1時間)	①障害の基礎的 理解 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション） 	(8)-①

(3時間)	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害(視覚・聴覚・平衡感覚・音声・言語・咀嚼・肢体不自由・内部障害) 知的障害 精神障害(高次脳機能障害・発達障害など) 	(8)-②
	③家族の心理、かかわり支援の理解 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 障害の理解・障害の受容支援 介護負担の軽減 	(8)-③
(9) ところとからだのしくみと生活支援技術	【ア 基本知識の学習(10~13時間)】		
	①介護の基本的な考え方 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> 倫理に基づく介護 法的根拠に基づく介護 	(9)-①
	②介護に関するところのしくみの基礎的理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 学習と記憶の基礎知識・感情と意欲の基礎知識 自己概念と生きがい 老化や障害受容の適応行動と阻害要因 ところとからだの相互作用 	(9)-②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 骨・関節・筋に関する基礎知識 中枢神経と体性神経、自律神経と内部器官の基礎知識 利用者の様子の変化に気づく視点 	(9)-③
	【イ 生活支援技術の講義・演習(50~55時間)】		
④生活と家事 (4,5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 生活と家事の理解(生活歴、自立支援、多様な生活習慣、価値観、介護予防の視点) 家事援助に関する基礎知識と生活支援 	(9)-④	
⑤快適な居住環境整備と介護 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 快適で健康的な居住環境(照明・色・騒音、家庭内に多い事故) 居住環境の整備と福祉用具の活用(バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与) 	(9)-⑤	
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 整容に関する基礎知識(身じたく、衣服の選択、着脱、整容行動の意義・効果) 整容の支援技術(洗面・整髪・髭そり・爪切り・化粧) 	(9)-⑥	
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (9時間)	<ul style="list-style-type: none"> 移動・移乗に関する基礎知識 移動・移乗介助に関する福祉用具と活用方法 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 移動と社会参加の留意点と支援(残存能力の活用、自立支援、ボディメカニクス、褥瘡予防、骨折、バリアフリー) 	(9)-⑦	

	⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (7,5 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境整備と用具の活用方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 (食事する意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養、脱水、姿勢、咀嚼と嚥下のメカニズム、満腹感・空腹感、好み、環境整備、福祉用具、口腔ケア、誤嚥性肺炎の予防、配食サービス)	(9)-⑧
	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔に関する基礎知識 ・用具と活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (羞恥心、遠慮への配慮、体調の確認、清拭、陰部洗浄、足浴・手浴・洗髪、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、痒み)	(9)-⑨
	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (8 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 (身体面・心理面・社会的意味、羞恥心、プライバシーの確保、おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活に及ぼす影響、一部介助の具体的方法、便秘予防)	(9)-⑩
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (3 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 (睡眠の質、安楽な姿勢、室温・湿度・光・音、褥瘡予防)	(9)-⑪
	⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 (6 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程と「死」に向き合うところの理解 ・多職種間の情報共有の必要性 	(9)-⑫
	【ウ 生活支援技術演習 (10~12 時間)		
	⑬介護過程の基礎的理解 (6 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ 	(9)-⑬
(75時間)	⑭総合生活支援演習支援技術 (6 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心身の状況に応じた介護を提供する視点の理解 事例の提示→課題の分析→適切な生活支援の検討→支援技術演習→支援技術の習得と課題 	(9)-⑭
(10) 振り返り	①振り返り (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点 	(10)-①
(4 時間)	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修 (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修(事業所等の事例：OJT/OFF-JTを紹介) 	(10)-②

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を実施するにあたっては、本要綱「14 実習」の内容に留意すること